令和６年能登半島地震による石川県における被害・感染症に関するリスクアセスメント表（2024年1月5日現在）

国立感染症研究所

	① 地域・避難所で流行する可能性 1. 低、2. 中、3. 高	② 公衆衛生上の重要性（罹患率・致命率・社会的） 1．低、2．中、3．高	③ **リスク評価 1. 低、2. 中、3. 高**	コメント
避難所の過密状態に伴う感染症				
急性呼吸器感染症（インフルエンザ*、COVID-19*を含む）	3	2	3	避難所の過密状態が継続する場合に、流行する可能性がある。全国的にも県内においてもインフルエンザの活動性は高く、COVID-19は低い。物品が不足するケースもあるが、避難所における可能な限りの手指衛生、マスクを含む咳エチケットの実践が必要である。また、東日本大震災時に、寒冷・脱水・ストレスの影響による肺炎リスクの増加が示唆された研究がある。
水系/食品媒介性感染症				
感染性胃腸炎/急性下痢症（黄色ブドウ球菌・サルモネラ・カンピロバクター・EHEC・ノロウイルス・ロタウイルス*など）	3	2	3	断水の影響等により安全な水の利用が困難なことから、感染性胃腸炎の発生および感染拡大のリスクは高い。避難所での手指衛生対策強化に加えて、食品衛生管理の強化、トイレの衛生状態の保持が重要である。特に避難所において嘔吐・下痢の症状が出現した際は、速やかに申告するよう避難者、支援者含めすべての避難所関係者に周知する。
野外活動等で注意する感染症				
破傷風*	2	3	3	がれき撤去等の作業による外傷後、泥流や土壌曝露後に感染しうる。特にワクチン未接種の世代にリスクがあるため、必要に応じて破傷風トキソイドの接種が行われる。
創傷関連皮膚・軟部組織感染症	2	3	3	がれき撤去等の作業に伴う受傷により創傷関連皮膚・軟部組織感染症発生の可能性がある。
レジオネラ症	2	2	2	がれき撤去等の作業に伴う、エアロゾルや粉塵の曝露に注意。適宜マスク着用し作業を行う必要がある。
感染症発生動向調査で流行がみられる疾患				
咽頭結膜熱	3	2	3	県内の定点サーベイランスにおいて流行がみられており(過去6年間で最も高いレベル）、物品が不足するケースもあるが、避難所における可能な限りの手指衛生、マスク着用を含む咳エチケットの実践が必要である。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	2	2	県内の定点サーベイランスにおいて流行がみられており、物品が不足するケースもあるが、避難所における可能な限りの手指衛生、マスク着用を含む咳エチケットの実践が必要である。
ワクチンで防ぐことのできる感染症				
麻疹（はしか）	2	3	3	2023年、全国では少数の届出のみで県内では届出はないが、輸入例等により持ち込まれ、また避難所に感受性者（乳幼児やワクチン未接種者等）が居住する場合、重症かつ空気感染により伝播する麻疹は警戒をする必要性がある。麻疹様症状を呈する者が認められた場合には速やかな隔離が必要である。
風疹（三日ばしか）	2	2	2	2023年、全国では少数の届出のみで県内では届出はないが、避難所での発生があると、ワクチン未接種の成人を中心に感染伝播の可能性がある。妊娠初期の感染は先天性風しん症候群のリスクがある。（妊娠中の風しんワクチン接種は禁忌）
ムンプス（おたふくかぜ）	2	2	2	全国と県内ともに活動性が低いが、避難所等の集団生活の中で感受性者がいた場合、感染拡大の可能性がある。
水痘（みずぼうそう）	2	2	2	空気感染により伝播することから避難所での流行の可能性がある。免疫のない成人、特に妊婦等は注意が必要である。
百日咳	2	2	2	飛沫感染・接触感染により伝播することから、避難所での流行の可能性があり、乳児が罹ると重症化する可能性がある。長期に咳症状が持続する場合には乳幼児への接触を控え、咳エチケットを実践する。
肺炎球菌感染症	2	2	2	飛沫感染により伝播する。東日本大震災において発災直後から3週間程度の間に肺炎球菌肺炎が多発した。
侵襲性髄膜炎菌感染症	1	3	2	飛沫感染により伝播し、集団生活で感染する可能性があり、一部重症化することがある。

＊ワクチンで防ぐことのできる感染症でもある